

短期留学体験レポート (中国・北京)

国際学部 2年

21014065 田中久幾

今回のレポートでは、留学ならではの喜怒哀楽や感じた事・思った事について述べていきたいと考える。

まず、留学ならではの喜怒哀楽については、やはりうれしい事、楽しいことは勿論あるが、イライラし、歯がゆい感情に襲われることも多々あった。うれしい事というのは、やはり今までとは違う、新しい環境で過ごし、新しい人と出会い、新しい友人ができたことである。留学とは、異国の地で勉強しながらその、本場の雰囲気に触れながら過ごすことであると考え。したがって、「新しい」という言葉は必ず、毎日どこかに溢れている。そのような環境で、約半年間過ごせたことは私の人生の中でとても大きいものになると自信をもって言える。そして私は、留学での出会いは、とても貴重なものだと考える。日本、特に新潟で過ごしていると外国人に出会う可能性は近年では増えてきたものの、未だにその確率は低いと言える。ましてや、その人々と関わりを持つ事は、一般の人には厳しいと言える。しかし、中国・北京で生活をしていると、周りは当然のごとく中国人だけでなく、外国人がたくさんいる。そのような人たちと約半年間触れ合えたことはとても貴重である。その中でもご飯を一緒に食べ、休みの日はどこかに出かけに行く、友人ができた。友人になるといろいろな話をする。例えば、その人の思考やその国の価値観、時には深く話し込んで過去の戦争の話などである。そのような経験は、留学ならではの経験である。留学には、楽しい事だけではない。辛い事や悲しいこともある。今回の留学で私を感じたのは主に、言葉の問題であった。私自身の中国語力がまだまだ甘く、最初の2か月は本当に話す事、聞くことができなかった。この期間は本当に辛かったことを今でも覚えている。授業中に先生が言っていることがわからずに、質問されたことがわからずに、授業を中断させてしまうことが多々あった。それに加え、外国人の友人の話す中国語も全くわからない。しかし私の場合は幸いなことに、先生も友達も私の話すスピードに合わせてくれ、なんとか一日一日をこなす日々を過ごしていた。自分の言いたい言葉が言えない、自分の感情が表せないという状況に、歯がゆさや苛立ちが募った。それでも授業に参加し、友人と少しずつ接した結果、徐々にわかるようになった。さらに、留学を終えるころには、友達に私の中国語力は本当に伸びた、と言われとてもうれしかったことを今でも覚えている。この時のうれしさを忘れずに、私は今、留学を延長する決心をし、師範大学の本科生になるべく、中国語を勉強している。これから先、同じような喜怒哀楽に遭遇しても、頑張っていきたい。